

★本年もどうぞよろしく

OMC会員の皆さん、明けましておめでとうございます。もう一年たったかと時のたつのが早いと感ずるのは、年をとった証拠だと思いますが、同じ一年過ごすなら心身共に元気で楽しく、充実した年だったと思えるような年にしたいものです。その点OMCにはいろんな仲間同志の交流や楽しみがあり、老け込むひまがありません。このところ欠席が目立つ常連の方がおられますが、今年は旧に倍して例会にも顔を出して頂くようお願いします。OMCの伝統ある灯を大きくするのも小さくするのも、或いは消してしまうのも、会員の皆さん一人ひとりの気持ち次第だと思います。どうか本年も宜しくお願いします。

★12月例会レポート

1989年最後の12月例会はいつもより1週間早めて16日に行われた。途中近鉄百貨店1階コンコースではクリスマス演奏会が行われており年の暮れを感じさせた。なにわ会館例会場では“集まりが悪いなあ”と言いつつも結局17名を数えたが、忘年例会として缶ビールの一本づゝでも出せば賑やかに集まったのではないかと、ひとしきり雑談と楽しい会話がはずんだ。例会日にいつもの顔を見ると何かほっとした気になり心の安らぎを覚える。それにしても常連だった那須さんや今井さんまでが顔を見せてくれなくなったが、もうすっかりビデオに転向かと、話題にもなった。

上映作品「東北の旅」桐田豊繁氏、Su M 12分。今は亡き奥さんを偲んで新婚時代に行かれた東北地方へ旅された記録と作者の説明

が上映後にあったが、やはり作品の中で表現してほしいものである。天気が悪かったのも惜まれる作品であった。「長崎おくんち」金子博泰氏、Su M 10分。ショー化した祭りは人が多く撮影場所も固定しがちで撮影にご苦労は多いと思うがナレーションで説明してもらったら判り易かったに違いない。それにしても蛇踊りは圧巻だった。「山里に祭太鼓の音がする」村田英夫氏、Si M 10分。能登の奥地での祭り風景を熱心に撮って来られた村祭りの曲と現録とをゆっくりオーバーラップするなどの録音技術について助言があったがもう少し整理して手直しすればいい作品になりそう。「秋抒情」細見正氏、Si M 8分半。般若寺（コスモス寺）、勝尾寺、嵯峨野などの晩秋を追われた非常に美しい画面だ。ラストは煙のある地藏のところで終わった方が良かったのではないかとの意見があった。「石州雨情」辻村定利氏、Su T 4分。萩、津和野あたりへ行かれたときに撮影されたものだが雨の情感を出すのは難しい。「デザイン博点描」江村一郎氏、Si M 4分。短編の特徴を活かし、イメージ的アップ画面で構成すればもっと良くなった筈と惜まれる作品。リバイバルコーナーは前田茂夫氏「鍛冶屋一代」Su M 20分。有村博氏「翼よ」Su M 20分。以上往年の名作。「誰もいない闘牛場」上総修一郎氏、Su T 5分。再編集された努力跡十分。

☆今年30回公開映写会の記念すべき年、映写会へ向け作品の準備の方も今からよろしく。

☆1月例会は第4土曜27日、開会18時20分、於なにわ会館。乞多数のご出席と作品持参。

1990.2. (H2,2)

OMC撮影会のご案内

懸案になっておりました、撮影会を下記要領で行います。ご参加の方は、旅館の押さえの都合がありますので、大至急ご返答下さい。

日時 平成2年2月11、12日(日曜、祭日)

ルート 11日、AM9・30 大阪駅発、新快速・・・京都駅着、AM9・59
AM10・20 比叡山行きバス・・・延暦寺着、AM11・31、
PM15・31発バス・・・山頂・・・ロープウェイ・・・ケーブル・・・八瀬
・・・バス・・・大原着、宿泊(民宿、石折の予定)

12日、大原散策・・・バス若しくタクシーで賀茂川上流へ・・・
地下鉄北大路・・・京都駅・・・大阪駅、解散。

費用 旅費、宿泊費、拝観料、その他で約¥15,000。—

今回はシーズンオフの比叡山と大原を訪ね、厳寒の延暦寺諸堂と大原の三千院、寂光院、その他を撮影します。雪でも降れば、最高の被写体になるでしょう。それらしい音楽で立派なBGM(バックグラウンドビジュアル)が出来上がります。厳寒の中を歩くことになりますので、防寒具と靴をご用意下さい。以上

ご参加の方は夜、電話でも結構です。よろしく・・・

有村

★OMC撮影会始末記

恒例の一泊撮影会は2月11、12日の連休を利用して比叡山から大原の里へのコースで行われ、有村、越本、辻村、森、今井、桐田、花岡、合原の8氏が参加したが、初日は雨にたたられ、2日目はままずまずのお天気です。早く撮影会の面目を保った。今年は雪が多かったので、厳寒の比叡山では雪のある風景がたっぷり撮れるのではないかと期待していたが、前夜からの雨が降りやまず、雪の情景は幻に終わった。夜は大原の民宿で一泊懇親会、とり鍋料理の味に堪能しながら話はずんだ。2日目は前日と打って変わって晴れたり曇ったり天気、フィルムも大いに回った。そこに東京からの一人旅という和服のOL嬢と知り合いになり、モデルになってもらったり昼食を一緒にしたりで楽しさは倍増、皆満足のうち帰路についた。さてどんな作品が出てくるか今から楽しみである。(合原記)

★1月レポート

このところ寒波厳しく、北国は何年ぶりかの大雪らしい。大阪もからっ風が吹いて寒さひとしおだ。そんな日の夜の1月例会であったが会場はポカポカ春の陽気である。寒さのせいか会員諸氏の出足が悪かったが開会后、ようやくいつもの賑やかさが蘇った。

上映作品：「史跡の町にコスモスが咲いている」桐田豊繁氏、Su M 17分。津和野紀行映画、ご自身でナレーションを入れておられる努力作だが、もう少し整理して短くした方がよさそう。「秋・鷹ヶ峰」今井羨美氏、Su T 12分。1981年秋の撮影会作品、もう9年前

になる懐かしの作品。「春を告げる淀・よし原焼き」村田英夫氏、Su M 6分 2月14日淀川の春を告げるよし焼き、今では風物として定着した感がある催した。なかなか迫力ある作品であった。「花の趣情」細見正氏、Si M 6分半。ストロボでの雷の情景は不自然さが目立ちマイナスだったが、球のフラッシュを活用すればもう少しは感じが出る筈との意見が出された。画面の美しさはさすがだ。「鹿島槍への道」辻村定利氏、Su T 9分。なかなか立派な作品である。重い荷物を背負っての撮影は大変だったろう。歩く足のアップが印象的。「仲間と共に、志摩の旅」合原一夫氏、Si M 12分。氏の新作、フィルム不足がやはり画面に。一応まとまってはいるが構成に一工夫欲しいと声あり。「晩秋」江村一郎氏、Si M 3分半。美しい画面である。だが動きの少ない被写体だけに画面で変化をつける工夫をしてみられるとよい。「浪花歳時記」、増田栄一氏、Su M 16分。シネスコレンズを用いて撮影したものだけに、標準レンズでの映写では縦長の人間像が気になる。

★第30回公開映写会の記念すべき年

朝日生命ホールができた年、OMCがここで第1回映写会を開催し今年で30回の節目を迎える。これに相応しい映写会にするため、いい作品が多数集まるようお願いしたい。

★シングル8友の会大阪支部公開映写会は3月2日、午後6時富士フィルム大阪支社大ホールにて開催される。ぜひどうぞ。

☆2月例会は第4土曜24日、開会18時20分、於なにわ会館。乞多数のご出席と作品持参。

★「エクタクローム販売中止」の波紋

—合原一夫氏の東京だより(9)—

日経新聞に珍しく8ミリに関する記事が出た。「8ミリ守れ」映画人反発」という見出しだが、コダックがエクタクローム(ASA 160)の販売を3月30日で、同現像を7月31日で打ち切るとの方針決定に対し、「映像表現のひとつが奪われ、日本映画の基盤をも揺るがしかねない」と、映画関係者や映像作家らが反発、近くこの問題について同社と話し合う会を発足させる、というのが記事の要旨。8ミリ映画出身の若手映画監督が大勢活躍している現状から、こういう動きが出てきたのであろう。

われわれアマチュア人は、こうした問題についてはいつの間にかあきらめの境地にあり行動を起こすことなど考えた事もなかった。しかし、さすが映画でメシを食っている人たちである。アマチュアとは比較にならぬ危機感があり、問題意識が強いのであろう。

一旦決定されたコダックの方針が覆るとも思えないが、メーカーの一方的な経済論理だけでは通用しないゾと、反発の姿勢を見せてくれた彼らに拍手を送りたい心境である。

★2月例会レポート

このところ暖かい日が続いた中での例会日だったが、出席16名でいささか寂しい気がしないでもないが、病氣療養されていた香島氏が元気な姿を見せられ、関、中西氏を久し振りに迎えて賑やかな例会となった。所用で欠席の有村氏にかわって小倉会長が進行を、同じく合原氏にかわって花岡氏が記録を担当。

上映作品：「地車」中西康雄氏、Su M 15分。清滝のだんじりを克明に撮影された未編集フィルム。アップのカットをもう少し多く撮られたらよかった。止めうつしや長過ぎるカットは思い切った整理を。「水車よありがとう」金子博泰氏、Su M 6分。何回も播但線を通して撮影された力作。水車のカットを少し整理され、最後に「ありがとう」の水車のカットがあればということなし。公開映写会の候補作品がもう出来た？「月ヶ瀬・上野一人歩き」桐田豊繁氏、Su M 8分。あれもこれもと目に入るものをこまめに撮られているが、狙いを絞って撮った方がよいのでは。「冬の吉野」辻村定利氏、Su T 7分。手直ししてほしい所も何箇所かあるが、10年前のエルモクラブで初めての月例入賞の記念作品とか。「えべっさん繁盛記」村田英夫氏、Si M 14分。丁寧な宝恵駕籠と神社の風景で構成されている。ピントの悪い箇所はカットしテンポよく編集して半分位に縮めたらよい作品になるとの声多し。「旧奈良街道を歩く」細見正氏、Si M 6分30秒。1日の撮影ということであるが、綺麗な画面で手際よく纏められた腕前はさすが。「彫刻のあるプロムナード」江村一郎氏、Si M 4分20秒。シングル8友の会撮影会作品。雨の日の彫刻を落ち着いた画面で構成、女性の顔と対比させたら面白くなったのでは？「或る日のパロディPART 3 / 5」関剛氏、Su T 4分20秒 / 6分30秒。関氏独特の風刺アニメだが、今見ても面白い。

☆3月例会は第4土曜24日、開会18時20分、於なにわ会館。乞多数のご出席と作品持参。

★超小型デジタルテレコに期待

—合原一夫氏の東京だより (10) —

このほどソニーが切身サイズで2時間録音可能なデジタル式超小型テレコを開発したと発表、年内にも商品化されるらしい。テレコの外径寸法は115×50×21ミリというから現在市販されているテレコと大差ないがカセットの寸法が25分の1と小さいことから、いずれ本体寸法も小さいものが出来よう。大きさはともかく、デジタル式ならダビングしても音の劣化がなく、8ミリ用の現録としては大いに期待される商品と云えよう。

ソニーはその他8ミリビデオもデジタル化すると発表、続いて日立も来秋にデジタル式8ミリビデオカメラを発売予定と発表、世はまさにデジタル化の方向を向いている。

取り残された「8ミリ派」は指を食わえているばかりだが、なーに、デジタル化しなくとも、シャープな映像ならまだまだフィルムにはかなわないさ、と当分開き直っていこう

★3月例会レポート

今年は暖冬のせい桜の季節があっという間にやってきて、花見を楽しむゆとりもなく過ぎ去ってしまったという感じ。何だか欲しいな気候ではある。

例会日はあいにくの雨模様だったが20名近くの会員が集まり、1カ月ぶりで会えた同志と開会前の楽しい語らいが続く。先日の大原撮影会で出会った東京の女性、鹿子木雅子さんより写真同封で手紙が来たと有村氏より紹介。有村氏が彼女に贈ったビデオはまだ見ていないと書いてあって、いささかがっかりの

感あり。それに彼女を写したスチールのネガも全部欲しいとも…。夢去りぬの感あり。

さて、時間が来たので進行の有村氏、では始めようと「皆さん今日は」と口火を切るとすかさず「今晚は」と大声で訂正が入り、どっと笑い声が起った。まずはなごやかに作品上映開始：「花の散歩道」滝野繁次郎氏、Si M 8分。奥さんと二人で花咲く寺めぐりの記録だが、この辺で表現方法、構成等イメージチェンジを試みられたら如何なものか。

「私が見たゆりかもめ」桐田豊繁氏、Su M 5分。鴨川にもゆりかもめが一杯いるものだが「私が見た」という表題に異論も。「秋の彩り」金子博泰氏、Su M 5分。嵯峨野で拾った秋の風情。紅葉の紅さが印象的だが少し多過ぎた?。「み仏おわす梅日和」村田英夫氏、Si M 6分。中山寺の観音像と梅林が主題。きれいな画面だがアップの手ふれが残念。三脚が小さい?。「もう一つの京都」今井羨美氏、Su T 20分。OMC撮影会作品。もう8年にもなるか。当時の情熱が感じられる作品。

「どやどや」細見正氏、Si M 4分。1月14日四天王寺の祭り、迫力ある場面、しばし撮影の苦勞話が披露された。「21世紀に向けて」辻村定利氏、Su T 7分。エルモクラブの博覧会課題作品。カットの切りかえが見事。「翼よ永遠に」有村博氏、Su T 18分。主人公の死に改めてしみりさせられた往年の名作。閉会后二次会で話題引継ぎ。

★撮影会作品完成の方は4月例会へどうぞ。

☆4月例会は28日(土)月1回の楽しい集いにどうぞ。会費納入の方もどうかよろしく。

★故人の8ミリ機材が狙われる？

—合原一夫氏の東京だより(11)—

東京で聞いた話だが、8ミリ愛好者が故人となられた後、そのご遺族に8ミリ機材を売ってほしいと上手に取り入り、ゆずってもらってそれをカメラ店へ売って利ざやを稼ぐ人がいるそうだ。ゆずってもらったご当人がその機材を使用されるならば、故人も本望かも知れないが、単なる利ざや稼ぎに利用されるとあれば、怒っておられるかもしれない。

8ミリ界はフェアでありたいものだ。

○★4月レポート

例会日の第4土曜28日はゴールデンウィークの初日とあって、昼間から花博会場は大賑わいだったとか。8ミリの例会でもそうした花博作品がそろそろ出てきても良さそうな頃だが、まだ誰も出品してこない。ビデオクラブでは花博記録が毎月出ているというのに。8ミリとビデオでは取り組み方の違いということかも知れない。一番乗りはさて貴方か？

今月は春の撮影会作品の公開審査日。3本の出品があり全員投票の結果、森氏が1位を獲得。僅差で花岡氏が選ばれたが、3本の作品とも立派な出来で感心させられた。

上映作品：「怒濤」金子博泰氏、Su M 6分。
昨年3月例会に出品された「冬の彩り」の再構成作品。狙いを絞ったのは成功だがBGMの津軽三味線はイメージを混乱させる。「池畔の春」村田英夫氏、Si M 6分。きれいな画面に仕上がっている。長岡京市の天神さんの境内でのスケッチだが、踊りは少し控え目の表現にしたかった。「春節祭」細見正氏、Si

M 7分。群集で動きが自由にならない条件下で、よくぞ上手に撮られた。中国情緒が画面に存分に出ていてよかった。中国の人は親切だったとウラ話が披露された。「春光」江村一郎氏、Si M 5分40秒。きれいな画面にはいつも感心させられる作者だ。タイトルから受けるイメージと内容が合わないとの声あり。「かみさん連れの小さな旅」合原一夫氏、Si T 9分10秒。本日録音、試写もしないうちに急ぎ持ってきたという氏の新作。我が家の記録アルバムといった小品。「幸せの讃歌」辻村定利氏、Su T 10分30秒。ダイナミックな構成で映像的なまとめ方はさすが。エルモで鍛えられた腕前が光る。観客の歩くカットが多すぎるのはマイナス。また、イントロの原爆写真は、意図は判るかない方がよかったのでは。「酒沢団地」増田栄一氏、Su T 13分。10年ほど前の公開映写会出品作品。今見てもなかなかの努力作である。あの頃は張り切っておられた。

★春の撮影会作品公開審査結果は森氏が1位「洛北点描」森保信氏、Su T 6分15秒。後で撮り足しに行かれた努力が報われた作品。比叡山の護摩たきをラストに持ってこられたが、ややウエイトをかけすぎた。「大原旅情」花岡汪氏、Su T 6分40秒。ひとり旅の女性をうまく使ってまとめられた。ただ女性の静止画面が少ないのが残念。「女ひとり」桐田豊繁氏、Su M 3分15秒。歌謡映画風にうまくまとめられた。少しあわたたしいのが惜しい。

☆5月例会は第4土曜26日、開会18時20分。於なにわ会館。乞多数のご出席と作品持参。

★1千人を越す盛況の公開映写会

—合原一夫氏の東京だより (12) —

昨年8月レポートでも紹介したが、池袋の豊島公会堂で毎年2回はやっている山岳映画サロンの公開映写会に今年も行ってみた。

開場5時45分、私は山好きの友人2人を連れて6時に着いたがもう1階は一杯で席はなく、2階へ行ってようやく3つの空席を探し出す、という始末。定員1,058名というから1,000名以上は入っている勘定で、同じ8ミリクラブの公開映写会でも「山」とテーマを絞ればこんなにも人が集まるのかと感じいた次第。もっとも山歩きの好きな人たちがスクリーンでもう一度あの感激を味わいたいとの期待感もあるのだろう。もう一つは封筒を入場者に配り、切手代として何がしかのお金を入れ、宛名を書いてもらって回収しているので、案内状が効果的に配られているということも要因かもしれない。OMCの公開映写会にもあの3分の1でも来てくれたら大入り満員になるのだかと思ったりする。今年の秋の公開映写会へ向け、大いに頑張ろう。

★5月レポート

花博は予想以上に入場者があり、市内でも地方からの観光客で賑わっている。例会に、もうそろそろ作品が出て来そうなものだが今月もなし。花は美しく絵にはなっても映画にはなりにくいということか。今月も先月に引き続き司会の有村氏ご欠席で小倉会長がピンチヒッターを引受けられる。作品は新作中心に10本が出品され、うれしい悲鳴ながら時間一杯の上映となった。例会の充実さは有難い

上映「晩秋の奈良点描」桐田豊繁氏 Su M 6分25秒。しっとりとした情景だがカメラの動きが多く落ち着きが足りないのが惜しい。「京都名園めぐり」滝野繁次郎氏 Si M 11分。丁寧に撮られていて結構だがナレーションが欲しい。奥さんもできるだけ前からのカットを撮りたい。「飛鳥散策」金子博泰氏 Su M 6分15秒。1日の撮影でフィルム3本回しただけという効率よい? 作品とか。その割にはよく撮られているか絵と説明が合わない部分があり気にかかる。「平家物語・寂光院」村田英夫氏 Si M 5分24秒。浄瑠璃の語りをバックに雰囲気を出しておられる努力作。「斑鳩の秋」細見正氏 Si M 6分。いいカットはあるが、細見作品としては少し物足りなさが残る。

「天下茶屋」江村一郎氏 Si M 4分。路面電車の通る町角にどっしりとカメラを構え望遠で撮られた話題作。江村氏らしい作品である。

「昴」横山勇氏 Su T 4分30秒。小樽にロケした効果は抜群、冬の寒さがよく表現されている。「豊穰の譜」辻村定利氏 Su T 9分45秒。昭和62年福岡でのAMA全国映像コンテスト一般部門特選作だけあって素晴らしい。いい映画を観せてもらった。「足助紀行」合原一夫氏 Si M 13分20秒。昭和57年OMC撮影会作品。川畑会長も同行しての一泊撮影旅行が今はなつかしく思い出される。ラストは「南九州の旅」増田栄一氏 Su T 14分。今はなき小型映画友の会全国撮影大会参加作品だが、当時150名ほども参加したと懐旧談しばし。

☆6月例会は第4土曜23日、開会18時20分。
於なにわ会館。乞多数のご出席と作品持参。

OMC News

H2.7

発行 大阪ムービーサークル事務局 小倉宝蔵

〒531 大阪市北区長柄東2-1.21-204

TEL (06)357-7281

1990.7 No.296

★28クラブが参加、朝から開催の映画会

—合原一夫氏の東京だより (13) —

去る6月17日、東京勤労福祉会館大ホールで行われた第24回8ミリフェスティバル東京に朝から出かけた。9時半会場だがさすがに空席だった。やがて「映画映像かビデオ映像か」というテーマで舞台上で討論が始まった。

まあ、結局は全国からアンケートを求めて答えてくれた人の代表として横山勇氏の意見が朗読され、これが結論でしょうとお開きになった。つまり8ミリでもビデオでも自由にやればいいのである。私はそれより映像を通じた人と人とのふれ合いに、より意義を感じ人生の楽しさ豊かさを見出すのである。

東京では28団体ものクラブが集って朝から終日8ミリを上映し、終了後懇親会を開いて交流する様は、さすが東京だと思った。関小連の往時の活力は何処へ行ってしまったか。なお、OMCの辻村定利氏が「たんぼの詩」を招待作品として出品、司会より紹介を受けた後上映、キレのよい編集タッチとアップを活かした映像表現に関西作家のレベルの高さを関東人に大いにアピールした。拍手!

★6月レポート

梅雨の晴れ間、33℃という今年一番の暑い例会日となったが会場は冷房がよく効いており薄着では肌寒いほど。つかの間の避暑とはいえ、仲間とも会えるのだからもっと会員諸氏の集まりが増えても良さそうなものだと思いつつオープニング。3ヶ月ぶりで有村氏の司会復活、なごやかに会は進む。今月は7本が出品されたが、安定した出品数は有難い。

上映:「大台ヶ原ハイキング」滝野繁次郎氏

Su T 12分、一人で自作自演は手間がかかって大変だ、か熱心に撮られている。整理してナレーションを入れればぐっと良くなる。

「清滝も高尾も燃ゆる紅葉かな」桐田豊繁氏 Su T 5分、綺麗な紅葉だがアップが欲しい。手持ち撮影で落ち着きがないのも残念。ここで有村氏より「7・5・3の法則」といったアドバイスがあった(ロング7秒、ミディアム5秒、アップ3秒を原則として構成すればリズムにのり、BGMにも合うという…)。

「ぶらりある区」村田英夫氏、Si M 7分。新装なった天王寺公園に三脚を据え、しっとりした感じを映像化された佳作。タイトルにご一考を、という助言あり。「富士春景」江村一郎氏、Si M 4分。何時もの江村作品とは趣を異にする映像だがさすがに美しい。画面の構成面で色々意見が出た。「アルプス紀行」辻村定利氏、Su T 7分半。スイスの山歩きのシーンは圧巻、空の青さが眼にしみる。こういう観光記録ものはカットが短いと不満が残る。もっとゆっくり見たかったカットあり。リバイバルコーナー:「重信さん」前田茂夫氏、Su T 20分。昭和60年公開映写会作品。

あの頃の氏の情熱はどこへいった。今年こそ頼みませ! の声に、そうだそうだと声多し。

「夏姿郡上八幡」増田栄一氏、Su T 17分。昭和55年公開映写会作品。郡上踊りがいい。

★春の撮影会作品表彰、会長より楯を贈呈。秀作賞: 森、花岡の両氏。努力賞: 桐田氏。

★7月例会は第4土曜28日、開会18時20分、於なにわ会館。を多数のご出席と作品持参。

OMC News

H2.8

発行 大阪ムービーサークル事務局 小倉宝蔵

〒531 大阪市北区長柄東2-1.21-204

TEL (06)357-7281

1990.8 No.297

★香島淳二氏永眠の報せに驚く

—合原一夫氏の東京だより (14) —

7月例会日の前日、即ち7月27日金曜日の早朝、かねて病氣療養中だった香島淳二さんが亡くなられたとの悲しいニュースを例会の席で聞き驚いた。例会日は葬儀の日でもあり小倉会長はじめ有志の方々が葬儀に参列、その報告を会員一同しんみりと聞いた。

香島さんは鉄筋工事や金物工事を手掛けられていたので、私も建設業界に身を置く者としてかなり以前から知り合い、話の合う仲間の一人であった。撮影会でも車に乗せてもらったことも再々であった。鉄筋組立作業をうつつした8ミリを持参してどうまとめたものだろうかと相談を受けたこともあった。

OMCでの作品は昭和63年2月例会に歌謡映画「命くれない」を出品されたのが最後かと思われるが大台ヶ原の自然をうつつした美しい作品が印象に残っている。例会では今年2月比較のお元氣そうな姿を見せられたのが最後のご出席だった。また私は別の映像クラブ FEG (天六)「春のうずしお一泊撮影会」で楽しく語り合えた4月30日が氏との最後の出会いとなってしまった。ご冥福お祈りします。私も血圧が上がって救急車の世話になったこともあり、家内も入院中だが、健康にだけはお互い注意して、一日一日を大切に悔いのない人生を送りたいものである。そして映像仲間との楽しい語らいをいつまでも続けたいものである。

★7月レポート

今年の暑さはまた格別だ。12年ぶりの猛暑

だという。雨もしばらく降らないので東京では給水制限が始まりよけい暑さを感じる今日この頃である。それでも例会場のなにわ会館では冷房が効き一寸した避暑気分になれる。今月は久方ぶりに関さんのお顔が見えたのと療養中だった上総さんが作品を引っさけてのご出席がありホッとす。冒頭、司会の有村氏より香島氏訃報の知らせがあり一同しんみりのご冥福をお祈りした後、上映に入った。上映;「女ひとり」桐田豊繁氏、Su M 3分15秒。春の撮影会作品の再上映。企画の有村氏が見てないということで持参された。「祇園祭」桐田氏、Su M 6分。山鉾を丁寧に撮影された努力作。「釣山河」滝野繁次郎氏、Su M 15分。十津川釣紀行と副題が付けられてある通り、十津川上流でのアマゴ釣りを自作自演でモノにされたなかなか努力作である。もう少し整理されたらもっと良くなる。うつつまつり」江村一郎氏、Si M 6分。気楽に撮られた季節感を感じさせてくれた作品。

「花の万博」細見正氏、Si M 10分。弁慶号の進行を中心にして万博のバラエティな画面を要領よくまとめられた佳作。「カスバとメディナ」上総修一郎氏、Su T 14分。モロッコの珍しい風物と現地人の生活をにじませた氏ならではの作品。「疏水に沿って」村田英夫氏、Si M 10分。タイトルの如く疏水に沿った散策コースを丁寧にとられた。

★今年30回目の公開映写会10月19日金曜日。出品予定者は頑張って最後の仕上げをどうぞ。

☆8月例会は第4土曜25日、開会18時20分。於なにわ会館。乞多数のご出席と作品持参。

★レコードを売ってない「レコード店」

—合原一夫氏の東京だより (15) —

今夏の暑さには参った。そこで地上の暑さから逃れて八重洲地下街へ入り、ぶらり散歩したときのこと、レコード店が見つかったので、久しぶりに8ミリBGM用に何ぞえゝ曲ないかと入ってみたが、いやー、しばらくぶりのこととて店内のサマ替り様は驚くばかり最近はやりのCDのオンパレード。片隅にLPレコードらしきものがあつたのでそのコーナーへ行くと、何と絵の出る何とやらで一見レコード風なれどレコードならず、遂にレコードはなかつたのである。結局自然の風景をうつしたビデオテープを見つけ、これのBGMなら使えるんじゃないかと見当をつけて買って来た。消費税込み3000円で45分も見て聴けるならこれも安い買い物じゃないかと妙な納得で妥協したのだ。レコード針をつくっていたナガオカがつぶれたというのうなづける。いよいよCDのキカイにかいかえにゃいかんかなと、古いプレーヤーをなでながらつぶやく一方、幅1メートルにも及ぶレコードのストックを眺めてはタメ息をつくのだ。あの「レコード店」、レコードが無いなら「レコード店」と云うなってんだ、全く…。

★8月レポート

先月に引き続いて今月も「今年の暑さは格別…」と書き出さなくちゃならない程の異常さだが8月例会頃には、朝夕やゝ涼しさを感じる様にはなってきた。今月は小倉会長がケニアへ撮影旅行中でお休み、有村氏の進行役で開会。まず秋の公開映写会へ出品される方

は応募票を会長宛早急に郵送または持参するようお願いがあり、早速上映開始。今月も新作を中心に8本も集まり時間一杯充実した例会となった。

上映; 「花の万博」金子博泰氏、Su M 9分 韓国の踊りを中心に、それに噴水を若干入れた構成だが「花の…」のタイトルなら花をイメージ的に入れたらどうだろう。「あすか路を行く」村田英夫氏、Si M 9分。ご自身のナレーションでよくまとまっていて感心。石舞台も欲しかったの声あり。「御田植の神事」細見正氏、Si M 8分。人が多くて動けない条件下でよく撮られている。ナレーションがあったらもっとよく理解できたのと思う。

「あやめ池スケッチ」桐田豊繁氏、Su M 6分 トップの長い室内撮影は照明不足で残念だが外の遊園地はきれいに撮られている。人が少ないので寂しい遊園地の印象になっている。もっと子供たちで賑やかな方が良かったかも知れない。「OBP」江村一郎氏、Si M 6分。さすがに映像センスの良さに感心。音楽のテンポがよい。だが一方、そのテンポに画面がついていかないという指摘もあった。この作品には話題沸騰したか時間切れで2次会へゆずった。「槍ヶ岳」花岡汪氏、Su 無声 11分。音入れが間に合わなかったと作者の弁。苦勞が滲み出た作品。「ぼくは電車ファン」滝野繁次郎氏、Si M 11分。S52年作、子どもさんがまだ小さくて可愛い。「温泉めぐり」滝野氏、Si M 6分。ホームムービー。

★9月例会は第4土曜22日、開会6時20分。
於なにわ会館。を多数のご出席と作品持参。

★尾瀬へ私も行けた、とうちのかみさん

—合原一夫氏の東京だより (16) —

東京で山岳映画サロンという8ミリクラブがある。かねて知り合いの伊藤会長より「初心者向けに尾瀬撮影会を計画したので参加しませんか」とのお誘いがあり、一度は行って見たいと思っていたので私も参加することにし、大阪へ帰宅してかみさんに話したら「私も行く!」と言い出した。かなりの道を歩かなければならないと聞いているし、駅までの近距離さえ歩こうとしない心臓の悪いかみさんには無理だと言いつ聞かせても、言い出した後へ引かず、遂に同行することになった。

6月1日、上野発一番列車で上越線沼田駅へ、それから鳩待峠へバスで登ってそこから尾瀬湿原へ下りる初心者向けコース。湿原では水芭蕉がやや盛りを過ぎてはいたものの、無数に咲く様は素晴らしかった。花好きのかみさん、感激して泣き出す始末。疲れも忘れて写真を撮りまくるかみさん、それを8ミリで追いかける私。日本画のような自然の風景を満喫して山小屋に二泊。いもの子を洗う様な混雑で寝るのも一苦労したのも暖かい思い出の種となる。3日目は尾瀬沼から三平峠へ抜け大清水のバス停へ至る長距離の歩きでかみさん、上り坂はさすがにしんどそうだったが、峠を越えて下りになると急に元気つき尾瀬を満喫できた喜びで足取りも軽かった。

かみさん、一生に一度でいい尾瀬へ行きたい水芭蕉が見たいとの思いが実現、私にも行けたと喜びをかみしめている。さあ、作品をどうまとめるか、今度は私の課題だ。

★公開映写会作品、今年は12本上映

このOMCニュースが届けられる頃はフェスティバルは終了していると思うが、盛況を期待したいものだ。後日の記録のために作品を列举すると①火焚きまつり・村田氏②釣山河・滝野氏③水車よありがとう・金子氏④槍ヶ岳・花岡氏⑤OBP・江村氏⑥三崎港のしげさん・今井氏⑦蘇杭とところどころ・関氏⑧花の万博・細見氏⑨カスバとメディナ・上総氏⑩ENJOY MY LIFE・有村氏⑪捨墓山・合原氏⑫サバンナの詩・小倉氏。

★9月例会レポート

台風19号の後、涼しさを感じる例会日和。「御堂筋パレード」桐田氏 Su M 14分30秒、5年前のパレード風景丹念に撮られた。「花見二題」滝野氏 Si M 10分、リモコン使用で奥さんと2人で桜とあじさいの咲く頃を。「火焚きまつり」村田氏 Si M 5分、公開映写会初出品。迫力ある撮り方で見事。「水車よありがとう」金子博泰氏 Su M 5分半。いい内容だけに色々な意見で賑わった。「OBP」江村氏 Si M 8分35秒、いいカットを撮られていてさすが江村作品だが意見も続出。「花の万博」細見氏 Si M 9分40秒、前月より2回撮りたし、テンポのよい編集で盛り上げられている。「ENJOY MY LIFE」有村氏 Su T 12分30秒、多趣味に生きる1人の人物を描く「蘇杭とところどころ」関氏 Su T 11分25秒、忙しい団体旅行でよくまとめられた。今月は公開映写会作品に絞った良い作品が揃った。

☆10月例会は第4土曜27日、新年度の会費納入月です。よろしく。作品の持参もどうぞ。

VTRに負けられぬ

8ミリ映写会

守り続け30周年

力作12本、海外編も

関西のサークル、19日に

今回上映されるのはこの八月にケニアの草原で野生動物を撮影した「サバンナの詩」、中世以来変わらぬモロッコの古い町並みを描いた「カスバとメディナ」、若い者には負けられないと槍ヶ岳登頂に挑む中年登山家の姿を追った「槍ヶ岳」など。会長の小倉宝蔵さん(70)は「ベテランが中心なので、内容は充実しています」と話す。

OMCが結成されたのは昭和十四年。当時、八ミリはあまり普及しておらず、五、六人でのスタートだったという。戦後は、カメラの低価格化や性能の向上で八ミリが一般化し、五十年に

は会員も会社員や自営業者を中心に七十人に達した。

三十五年からは年に一回、八ミリ映画フェスティバルを開催。ドキュメンタリーを中心に十五〜二十分の作品を毎回十本前後、無料で一般公開し、定員三百七十人の会場をいつも超満員にしてきた。

二年には百五十万合だった八ミリカメラの生産台数は六十二年に一万合になり、OMC創立五十年の昨年、とうとう生産ゼロに。プームの衰退とともに会員も減り、最盛期には六グループあった関西の八ミリ同好会はOMCを含めて二つだけになった。

部品に困るかもしれない。でもフェスティバルはやめません。残った会員は本当に好きな連中ばかりですから」と小倉さん。きめが細かく、きれいな画質は八ミリならではの良さ。

小倉さんは「カタカタとなる映写機、テープを使つてのフィルムへの切り張り。時代遅れかもしれないが、昭和に花開いた映像文化の良さを平成の若者たちにも伝えていかなくては」と言いながら、上映会の準備に追われている。



フィルムの編集作業をする小倉会長

半世紀の歴史を持ち、関西では最も古いアマチュア八ミリクラブ「大阪ムービーサークル」(OMC)が十九日、今年も大阪市中央区の朝日生命ホールで「八ミリ映画フェスティバル」を開く。毎年会員作品を上映し続けて三十年。ハイテク機能を満載したカメラ一体型VTRに押され、昨年ついに国内生産がゼロになった八ミリだが、会員の制作意欲は衰えず、今回も海外で撮影したドキュメンタリーなど十二本の力作が並ぶ。人気映画のロードショーにはない手づくりの上映会になりそうだ。

★遂に 300号の大台へ、OMCニュース
—合原一夫氏の東京だより(17)—

このOMCニュースの原稿を書いている、いつの間にか今月号が300号に達したことを知った。毎月欠かさず発行したとして $300 \div 12 = 25$ 年ということになる。この間8ミリ界もいろいろなことがあったし、会員の顔ぶれも変わってきたと思う。8ミリの栄枯盛衰の歴史そのものだったかもしれない。どなたか1号から300号まで取り揃えておられる方があるとするならば、コピーして記念本にしたものである。それにしても当OMCは他クラブが次々に消滅したり、ビデオクラブ化している時代であって、8ミリにこだわり続ける随一のクラブとして健闘していると思う。これも会員諸氏の8ミリへの愛情が支えになっているものと300号記念のOMCニュースの原稿を書きながら感じ入っている次第。これからみんな元気で楽しく頑張ろう!

★新聞でも紹介され盛会だった公開映写会

8ミリのことは新聞ではなかなか取り上げてくれないが、今年の8ミリフェスティバルでは日経新聞が小倉会長宅へ取材に来て、大きく紙面に掲載してくれたことや、滝野氏が釣りの雑誌に投稿して釣仲間を動員された等もあってか、会場には250名近くの観客が集まり盛会のうちに無事終了することが出来た。

勿論観客動員にご協力いただいた会員諸氏のご努力があったればこそで感謝感激である。

★10月レポート

例会場のなにわ会館のロビーは婚礼客で賑やかだ。いつの間にか秋もたけなわで結婚式

シーズンとなった。今月は会費納入(半期5千円)月で会計の増田氏はおおいそがしだった。新世話役の改選は来月の予定。小倉会長から本日、元エルモクラブ関西本部長服部氏の葬儀だったと報告があり、一同しみりとご冥福を祈った。

上映作品;「EXPO'90」中西康雄氏、Su M 17分。久方ぶりご出席の中西氏作品は花博で1日ご家族相手に撮影。ご家族をもっとアップで撮り入れられたらよかった等アドバイスがいろいろ出た。「十津川路・家族旅行」滝野繁次郎氏、Si M 13分。おなじみ家族主演の温泉などへの小旅行記。途中映写機のトラブルで音が出なくなり残念。「くらしきの顔」桐田豊繁氏、Su M 5分。ナレ入りで倉敷の特徴をよく撮られた。手持ちなのが惜しい。

「葛城の古道」村田英夫氏、Si M 5分。村田さんも腕を上げられた。しっとりした撮り方で安心感がある。BGMのレベルに注意とアドバイスあり。「1600万人の足音」辻村定利氏、Su T 7分20秒。ポートピア博記録、切れ味鋭いカットに若さを感じる作品。「夏の花博」江村一郎氏、Su M 8分。再び映写機の音の故障で、2度目にようやく直った。BGMと絵のテンポに話題集中。「WAY」関剛氏、Su T 4分。アイデアと見事な技術とが観るものを圧倒、制作の裏話が披露された。「いわての詩」増田栄一氏、Su T 15分。小型映画全国撮影会作品。「ムカシ」は大規模な撮影会をやっていたもんだと懐かしい思いも。

☆11月例会は第4土曜24日、会費未納の方はよるしく。作品持参の方もどうぞよるしく。

★あなたにとってどんな年でしたか？

今年も師走、季節はずれの台風等、変化の大きい天候続きの年でしたが皆さんはどんな年でしたか。来年も元気で頑張りましょう。

★Wランスーパー8フィルム再発売とか

「ひかり8ミリかわら版」によると上記フィルムがヒカリカメラに入荷予定とか。同カメラをお持ちの方には嬉しいニュース。現像料込みで9,210円(スーパー18mm×30m)。

★新年度の企画担当に関氏らを推薦

10月より新年度を迎えたが、企画担当の有村氏から2年続きで、マンネリ打破に新しい人をと提案があり、関氏にお願いしてはどうかということで、会長一任となった。

他の世話役はほとんど留任。相談役：横山、堀池、上総。会長兼総務：小倉。会計：増田。広報：合原。企画：関、今井、岡本、花岡。月例担当：司会・有村。映写・前田、岡本、今井の各氏。よろしくお願ひします。

★'90年度会計報告

90年度会計決算が11月例会で小倉会長より報告(増田会計風邪で欠席)があり承認された。収入403,027円、支出361,579円、残高41,448円。フェスティバル会計、収入、出品料120,000円、繰入金128,917円(一般会計より)計248,917円。支出248,917円。

今年度の問題点はフェスティバル会計で、昨年度で貯金がなくなり出品料や会費の値上げ、或いはカンパに頼るほかない。世話役会で討議の結果、来年も朝日生命ホールで行うことにして出品料2万円、会費6,000円(半期)と改定、会員の皆さんにご無理を願うこ

とにして例会で承認された。(前期の会費は既に納入済の方が多いため、5000円のままとし値上げ分1000円は後期と一緒に徴収することになった)。フェスティバル前にはカンパも行うことになったのでその節はよろしく。

フェスティバルは金がかかるが朝日生命ホールでの公開映写会はOMCの生き甲斐？

★11月レポート；「秋の吉備路といなば路めぐり」桐田氏、Su M 8分。S56年作、思い出の観光旅行映画。「抜穂祭」金子氏、Su M 5分50秒。伏見稻荷秋の例祭の記録、丁寧に撮られている。「秋のスケッチ」村田氏、Si M 4分40秒。勝尾寺で、美しい画面に仕上がっている。「嵯峨の秋」細見氏、Si M 10分。S55年氏の2作目になる初期の作品とのことだが、良くできた作品だ。テレビの音声を録音して、それに合わせて撮影したという勉強になった作品とか。「水芭蕉の咲く頃」合原氏、Su T 19分。本日録音完了という氏の新作。いろいろと意見や助言が続き、それが2次会へまで話題が引き継がれた。「三崎港のしげさん」今井氏、Su T 13分15秒。まぐろの水揚げシーンが狂巻。

★1990年会長賞に今井、江村作品

過去にグランプリを2回以上とった人以外の人に贈られるグランプリは今年も該当作品なし。会長賞に今井、江村両作品。OMC賞細見、金子両作品に、努力賞に花岡、村田、滝野の各作品に、それぞれトロフィー授与。

★新年懇親会；1月19日多数の参加を。

★12月例会は年末のため1週間早く第3土曜15日。お間違えないよう作品持参多数出席を